授業科目名： 日本古代文学特論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 奥田俊博、安井絢子 担当形態：複数

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項

授業のテーマ及び到達目標
１．『万葉集』の構成について理解する。
２．上代特有の語法について理解する。
３．『万葉集』に用いられる歌ことばの性格について理解する。

授業の概要
日本古代文学（上代文学）は、日本文学の知見だけでなく、日本語学、日中比較文学等の知見が必要となる領域である。日本古代における代表的な歌集である『万葉集』においても同様の事が言える。本講義では、『万葉集』を対象にして、日本語学の領域をも踏まえながら、大学院修士課程において『万葉集』を研究するにあたり必要な事項について講義を行うとともに、課題解決学習を取り入れて講義内容をより深く理解できるようにする。本講義では、『万葉集』の各巻の構成、『万葉集』の語法、語彙を中心に具体的な作品を取り上げ、歌人や作歌の説明も交えながら講義を行う。毎時間、『万葉集』所載の歌の読解を予習課題とする。

授業計画
第１回：日本古代文学概説　古代日本文学（上代文学）の範囲、日本古代文学の主要な文献（『万葉集』『古事記』『風土記』『懐風藻』『日本書紀』等）の概説、および、古代日本文学における『万葉集』の位置付けについて説明する。
第２回：『万葉集』の構成　『万葉集』の各巻の構成について、部立や歌の配列に関する課題を提示して、説明を行う。説明については、これらの課題について受講者と意見交換しながら行うことによって、課題の理解を深める。
第３回：『万葉集』の語法 (1)　『万葉集』の歌を読み解くには、上代特有の語法について理解しておく必要がある。本授業では、ミ語法について、歌の解釈を受講者と意見交換しながら行いいつつ、詳細を説明する。
第４回：『万葉集』の語法 (2)　本授業では、上代特有の語法のうち、ク語法について、歌の解釈を受講者と意見交換しながら行いいつつ、詳細を説明する。
第５回：『万葉集』の語法 (3)　『万葉集』に見える上代特有の語法のうち、ミ語法、ク語法について取り上げてきたが、本授業では、「ズハ」の用法について、歌の解釈を受講者と意見交換しながら行いいつつ、詳細を説明する。
第６回：『万葉集』の歌ことば (1)　『万葉集』の研究の蓄積は膨大であり、万葉歌に用いられている一語一語の解釈が重要となる。本授業では、『万葉集』前期歌人の死に関する歌ことばを取り上げて、受講者と意見交換しながら歌の解釈を行う。
第７回：『万葉集』の歌ことば (2)　本授業では、前回に引き続き、『万葉集』の歌ことばのうち、『万葉集』後期歌人の死に関する歌ことばを取り上げて、歌の解釈を受講者と意見交換しながら、歌ことばの性質を明らかにする。
第８回：『万葉集』の歌ことば (3)　本授業では、前回に引き続き、『万葉集』の歌ことばのうち、『万葉集』前期歌人の恋に関する歌ことばを取り上げて、歌の解釈を受講者と意見交換しながら、歌ことばの性質を明らかにする。
第９回：『万葉集』の歌ことば (4)　本授業では、前回に引き続き、『万葉集』の歌ことばのうち、『万葉集』後期歌人の恋に関する歌ことばを取り上げて、歌の解釈を受講者と意見交換しながら、歌ことばの性質を明らかにする。
第10回：『万葉集』の歌ことば (5)　本授業では、『万葉集』の歌ことばのうち、恋に関する『万葉集』の東歌の歌ことばを取り上げて、歌の解釈を受講者と意見交換しながら、歌ことばの性質を明らかにする。
第11回：『万葉集』の歌ことば (6)　『万葉集』には、季節に関する歌ことばが豊富である。本授業では、『万葉集』の歌ことばのうち、春に関する歌ことばを取り上げて、歌の解釈を受講者と意見交換しながら、歌ことばの性質を明らかにする。
第12回：『万葉集』の歌ことば (7)　本授業では、『万葉集』の歌ことばのうち、夏に関する歌ことばを取り上げて、歌の解釈を受講者と意見交換しながら、歌ことばの性質を明らかにする。
第13回：『万葉集』の歌ことば (8)　本授業では、『万葉集』の歌ことばのうち、秋に関する歌ことばを取り上げて、歌の解釈を受講者と意見交換しながら、歌ことばの性質を明らかにする。
第14回：『万葉集』の歌ことば (9)　本授業では、『万葉集』の歌ことばのうち、冬に関する歌ことばを取り上げて、歌の解釈を受講者と意見交換しながら、歌ことばの性質を明らかにする。
第15回：レポート作成と総括　第2回～第14回の授業で取り上げた歌から数首を選び、レポートを作成する。そのレポートを受講者が発表し、意見交換をしながら、『万葉集』の歌の理解を深める。

テキスト
井手至・毛利正守『新校注　万葉集』（和泉書院）、坂本信幸・毛利正守編『万葉事始』（和泉書院）

参考書・参考資料等
『新編日本古典文学全集　万葉集』（小学館）、『新日本古典文学大系　万葉集』（岩波書店）

学生に対する評価
(1) ミニッツペーパー10%、(2) レポート40%、(3) グループワーク20%、(4) プレゼンテーション30%

授業科目名： 日本古代文学特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 奥田俊博、安井絢子 担当形態：複数
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

１．『万葉集』における中国文学の受容と訓詁の方法について理解する。
２．『万葉集』の表記・文字表現の性質について理解する。
３．『万葉集』の修辞（枕詞、序詞、懸詞、比喩表現）について理解する。

授業の概要

日本古代文学（上代文学）は、日本文学の知見だけでなく、日本語学、和漢比較文学等の知見が必要となる領域である。日本古代における代表的な歌集である『万葉集』においても同様の事が言える。「日本古代文学特論Ⅰ」では、『万葉集』を対象にして、日本語学の領域を踏まえた講義を行ったが、本講義では、和漢比較文学の領域をも踏まえながら、大学院修士課程において『万葉集』を研究するにあたり必要な事項について講義を行うとともに、課題解決学習を取り入れて講義内容をより深く理解できるようにする。本講義では、『万葉集』における中国文学の受容、『万葉集』の文字表現や修辞を中心に、具体的な作品を取り上げて、歌人や作歌の説明を交えながら講義を行う。毎時間、『万葉集』所載の歌の読解を予習課題とする。

授業計画

第１回：日本古代文学と中国文学との関係についての概説　古代日本文学（上代文学）の範囲、日本古代文学の主要な文献と中国文学の関係について概説する。
第２回：『万葉集』と中国文学 (1)　万葉歌に影響を与えた漢籍の中から、『文選』を中心に取り上げて、どのような影響があったか、歌の解釈を受講者と意見交換しながら、受容のありかたについて解説する。
第３回：『万葉集』と中国文学 (2)　万葉歌に影響を与えた漢籍の中から、『毛詩』を中心に取り上げて、どのような影響があったか、歌の解釈を受講者と意見交換しながら、受容のありかたについて解説する。
第４回：『万葉集』と中国文学 (3)　万葉歌に影響を与えた漢籍の中から、『玉台新詠』を中心に取り上げて、どのような影響があったか、歌の解釈を受講者と意見交換しながら、受容のありかたについて解説する。
第５回：『万葉集』の文字表現 (1)　『万葉集』の文字表現のうち、義訓（字）を取り上げて、義訓が歌意をどのように豊かにしていくのか、歌の解釈を受講者と意見交換しながら、解説を行う。
第６回：『万葉集』の文字表現 (2)　『万葉集』の文字表現のうち、表意性を有する仮名を取り上げて、表意性を有する仮名が歌意をどのように豊かにしていくのか、歌の解釈を受講者と意見交換しながら、解説を行う。
第７回：『万葉集』の文字表現 (3)　『万葉集』の文字表現のうち、戯書を取り上げて、戯書が歌意をどのように豊かにしていくのか、歌の解釈を受講者と意見交換しながら、解説を行う。
第８回：『万葉集』の修辞 (1)　『万葉集』の代表的な修辞として、枕詞、序詞、懸詞が挙げられる。本授業では、『万葉集』の前期歌人の枕詞を取り上げ、歌の解釈を受講者と意見交換しながら、枕詞の性質について説明を行う。
第９回：『万葉集』の修辞 (2)　前回は、前期歌人の枕詞を取り上げたが、本講義では、『万葉集』の後期歌人の枕詞を取り上げ、歌の解釈を受講者と意見交換しながら、枕詞の性質について説明を行う。
第10回：『万葉集』の修辞 (3)　本授業では、『万葉集』の前期歌人の序詞を取り上げ、歌の解釈を受講者と意見交換しながら、枕詞の性質について説明を行う。
第11回：『万葉集』の修辞 (4)　前回は、前期歌人の序詞を取り上げたが、本授業では、『万葉集』の後期歌人の序詞を取り上げ、歌の解釈を受講者と意見交換しながら、枕詞の性質について説明を行う。
第12回：『万葉集』の修辞 (5)　『万葉集』の代表的な修辞のうち、本授業では、『万葉集』の懸詞を取り上げ、歌の解釈を受講者と意見交換しながら、枕詞の性質について説明を行う。
第13回：『万葉集』の修辞 (6)　『万葉集』には、巻3、巻7等に「譬喩歌」の部立が設けられている。本授業では、『万葉集』巻3の譬喩歌を取り上げ、歌の解釈を受講者と意見交換しながら、比喩の性質について説明を行う。
第14回：『万葉集』の修辞 (7)　『万葉集』には、巻3、巻7等に「譬喩歌」の部立が設けられている。本授業では、『万葉集』巻7の譬喩歌を取り上げ、歌の解釈を受講者と意見交換しながら、比喩の性質について説明を行う。
第15回：レポート作成と総括　第2回～第14回の授業で取り上げた歌から数首を選び、レポートを作成する。そのレポートを受講者が発表し、意見交換をしながら、『万葉集』の歌の理解を深める。

テキスト

井手至・毛利正守『新校注　万葉集』（和泉書院）、坂本信幸・毛利正守編『万葉事始』（和泉書院）

参考書・参考資料等

小島憲之『上代日本文学と中国文学　中』（塙書房）、芳賀紀雄『萬葉集における中国文学の受容』（塙書房）

学生に対する評価

(1) ミニッツペーパー10%、(2) レポート40%、(3) グループワーク20%、(4) プレゼンテーション30%

授業科目名： 日本古代文学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 奥田俊博、安井絢子 担当形態：複数
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

１．『万葉集』の古写本の特徴をふまえた上で本文を定め、様々な辞書・字書・事典・索引などを用いて、歌の意味を的確に把握し理解できる。

２．『万葉集』の歌を分析・研究する方法を身に付け、自ら調査・分析したことを論理的にまとめて他者に解りやすく発表できる。

３．様々な文献の調査や質疑応答を通して課題を見いだし、論理的に考えて課題解決ができる。

授業の概要

日本古代における代表的歌集である『万葉集』を研究するにあたり必要となる調査・分析の具体的な方法を身に付けるための演習を行う。本授業では『万葉集』の中から高橋虫麻呂の歌を取り上げる。演習発表を担当する歌に用いられたことばや字義を丁寧に調査し、文脈を考えて歌の表現内容を分析することを通して、歌の表現の意味を理解できるようにする。他者に解りやすいようにレジュメを作成して演習発表することおよび、質疑応答を行うことを通して、主体的に課題を見いだし、論理的に考察し、課題解決をする授業である。

授業計画

第１回：当該授業に関するガイダンス　当該授業の進め方についてガイダンスを実施する。『万葉集』と高橋虫麻呂について概説する。

第２回：『万葉集』の調査研究方法①　『万葉集』諸本について解説し、『校本万葉集』を用いた調査方法について説明する。『万葉集』の諸本を校合した上で本文を決定する調査研究方法について説明する。

第３回：『万葉集』の調査研究方法②　『万葉集』には多くの注釈書が在る。各注釈書の特徴とその調査方法について説明する。『万葉集』について調査研究する上で必要となる古辞書とその調査方法について説明する。

第４回：『万葉集』の調査研究方法③　『万葉集』・高橋虫麻呂の歌を取り上げて、調査・分析方法について説明する。

第５回：『万葉集』の調査研究方法④　『万葉集』・高橋虫麻呂の歌を取り上げて、レジュメを作成した上で演習発表する方法について説明する。

第６回：『万葉集』演習発表と相互質疑①巻9・1742番歌(1)　『万葉集』巻9・1742番歌を担当する受講者の演習発表と質疑応答を行う。本文の決定について受講者全員で意見交換を行って問題点を整理し、再検討すべき課題を明確にする。

第７回：『万葉集』演習発表と相互質疑②巻9・1742番歌(2)　『万葉集』巻9・1742番歌を担当する受講者の演習発表と質疑応答を行う。歌の内容について受講者全員で意見交換を行い、理解を深めるとともに問題点を整理し、再検討すべき課題を明確にする。

第８回：『万葉集』演習発表と相互質疑③巻9・1742番歌(3)　『万葉集』巻9・1742番歌を担当する受講者の演習発表と質疑応答を行う。高橋虫麻呂が娘子を題材に詠んだ他の作品と比較しながら受講者全員で意見交換を行い、理解を深めて、再検討すべき課題を明確にする。

第９回：『万葉集』演習発表と相互質疑④巻9・1743番歌　『万葉集』巻9・1743番歌を担当する受講者の演習発表と質疑応答を行う。受講者全員で意見交換を行い、理解を深めるとともに問題点を整理し、再検討すべき課題を明確にする。

第10回：『万葉集』演習発表と相互質疑⑤巻9・1744番歌　『万葉集』巻9・1744番歌を担当する受講者の演習発表と質疑応答を行う。受講者全員で意見交換を行い、理解を深めるとともに問題点を整理し、再検討すべき課題を明確にする。

第11回：『万葉集』演習発表と相互質疑⑥巻9・1745番歌　『万葉集』巻9・1745番歌を担当する受講者の演習発表と質疑応答を行う。受講者全員で意見交換を行い、理解を深めるとともに問題点を整理し、再検討すべき課題を明確にする。

第12回：『万葉集』演習発表と相互質疑⑦巻9・1746番歌　『万葉集』巻9・1746番歌を担当する受講者の演習発表と質疑応答を行う。受講者全員で意見交換を行い、理解を深めるとともに問題点を整理し、再検討すべき課題を明確にする。

第13回：『万葉集』演習発表と相互質疑⑧巻9・1742番歌についての再検討　『万葉集』巻9・1742番歌を担当した受講者の再検討レポート発表と質疑応答を行う。受講者全員で意見交換を行い、歌の読解をすることでさらに理解を深める。

第14回：『万葉集』演習発表と相互質疑⑨巻9・1743～1745番歌についての再検討　『万葉集』巻9・1743～45番歌を担当した受講者の再検討レポート発表と質疑応答を行う。受講者全員で意見交換を行い、歌の読解をすることでさらに理解を深める。

第15回：『万葉集』演習発表と相互質疑⑩巻9・1746番歌についての再検討　『万葉集』巻9・1746番歌を担当した受講者の再検討レポート発表と質疑応答を行う。受講者全員で意見交換を行い、歌の読解をすることでさらに理解を深める。この授業の総括を行う。

テキスト

井出至・毛利正守『新校注　万葉集』（和泉書院）、坂本信幸・毛利正守編『万葉事始』（和泉書院）

参考書・参考資料等

必要に応じて授業中に示す。

学生に対する評価

(1)ミニッツペーパー15%、(2)レポート40%、(3)プレゼンテーション45%

授業科目名： 日本中近世文学特論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 柏原康人 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項

授業のテーマ及び到達目標

１．「中世神話」の概要について理解する。

２．「中世神話」の背景にある歴史や思想について理解する。

授業の概要

中世は宗教文芸が隆盛した時代である。その中でも「中世神話」と呼ばれる一群は、中世に生み出された諸作品の中に多く見出すことができる。その読み解きには、日本文学のみならず、日本思想史、宗教史等の知見が必要となる。本講義では、「中世神話」を対象にして、大学院修士課程において中世文学、中世宗教文学を研究するにあたり必要な事項について講義を行う。本講義では、多岐に亘る作品を読み解きながら、「中世神話」の具体的なエピソードについて先行研究も踏まえつつ説明していく。

授業計画

第１回：「中世神話」概説　中世に古代神話を基礎に生み出された「中世神話」の概念について概説する。

第２回：「中世神話」研究史　「中世神話」が各時代においていかにして取り上げられたかに着目しつつ、その研究史について概観する。

第３回：中世の本地垂迹思想（1）　中世に展開した本地垂迹思想について、権実神の思想や殺生祭神に着目しつつ、説明を行う。

第４回：中世の本地垂迹思想（2）　中世に展開した本地垂迹思想について、蛇身としての神や苦しむ神、三国関係における神仏習合に着目しつつ、説明を行う。

第５回：中世の本地垂迹思想（3）　中世に展開した本地垂迹思想について、和歌陀羅尼観と中世神道の関わりに着目しつつ、説明を行う。

第６回：中世の本地垂迹思想（4）　中世に展開した本地垂迹思想について、中臣祓や神道灌頂に着目しつつ、説明を行う。

第７回：中世の宝剣神話（1）　中世に展開した宝剣の神話について、その土台となった古代神話について着目しつつ、説明を行う。

第８回：中世の宝剣神話（2）　中世に展開した宝剣の神話について、『富家語』や『平家物語』における宝剣の霊威譚の記述について着目しつつ、説明を行う。

第９回：中世の宝剣神話（3）　中世に展開した宝剣の神話について、『太平記』における宝剣観にまつわる記述に着目しつつ、説明を行う。

第10回：中世における国土生成神話（1）　中世における国土生成神話について、古代神話の再編と変容、中世神道における教説に着目しつつ、説明を行う。

第11回：中世における国土生成神話（2）　中世における国土生成神話について、盤古神話の変容などに着目しつつ、説明を行う。

第12回：中世における国土生成神話（3）　中世における国土生成神話について、両部・伊勢神道書における記述などに着目しつつ、説明を行う。

第13回：竹取伝承と中世神話（1）　中世における竹取伝承について、竹取物語との比較を行いつつ、説明を行う。

第14回：竹取伝承と中世神話（2）　中世における竹取伝承について、『神道集』『海道記』などの記述に着目しつつ、その変容と展開について説明を行う。

第15回：レポート作成と総括　第2回から第14回で取り上げた事柄についてレポートを作成する。作成したレポートを発表し、意見交換を行いながら、「中世神話」の理解を深める。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

伊藤聡『神道の形成と中世神話』（吉川弘文館）

学生に対する評価

(1) ミニッツペーパー10%、 (2) 中間レポート30%、 (3) 期末レポート60%

授業科目名： 日本中近世文学特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 柏原康人 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

１．『神道集』の成立や歴史的背景について理解する。

２．『神道集』における本地垂迹思想などの思想について理解する。

授業の概要

中世は宗教文芸が隆盛した時代である。その中でも「中世神話」と呼ばれる一群は、中世に生み出された諸作品の中に多く見出すことができる。その読み解きには、日本文学のみならず、日本思想史、宗教史等の知見が必要となる。本講義では、「中世神話」を対象にして、大学院修士課程において中世文学、中世宗教文学を研究するにあたり必要な事項について講義を行う。本講義では、『神道集』を取り上げ、講読しながら「中世神話」の歴史的背景や思想について講義を行う。

授業計画

第１回：『神道集』研究史　『神道集』の研究史や主要な文献について概説する。

第２回：『神道集』の構造と分類　『神道集』の各章の分類と配列とその背景にある思想について概説する。

第３回：『神道集』の諸本　『神道集』の諸本について概説する。

第４回：『神道集』の成立　『神道集』の成立について主要な先行研究を踏まえて概説する。

第５回：『神道集』「神道由来之事」⑴　「神道由来之事」の叙述形式について概観した上で、そこに記述されている神々の系譜と伊弉冉と伊弉諾の子ども達の神話について解説する。

第６回：『神道集』「神道由来之事」⑵　「神道由来之事」に記述されている伊勢神宮の縁起譚について前回の解説も踏まえて説明する。

第７回：『神道集』「神道由来之事」⑶　「神道由来之事」において問答形式によって記載されている記述内容について説明する。

第８回：『神道集』「神道由来之事」⑷　「神道由来之事」において問答形式によって記載されている部分の志向性について、文章の講読を通じて説明する。

第９回：『神道集』「赤城大明神事」⑴　「赤城大明神事」の梗概について概観した上で、そこに記述されている悲劇の特徴について説明する。

第10回：『神道集』「赤城大明神事」⑵　「赤城大明神事」の登場する人物に着目して、『神道集』の「物語的縁起」における本地垂迹について説明する。

第11回：『神道集』「赤城大明神事」⑶　「赤城大明神事」と在地縁起との比較を通して、『神道集』の縁起の特徴について説明する。

第12回：『神道集』「伊香保大明神事」⑴　「伊香保大明神事」の梗概について概観した上で、「赤城大明神事」からの物語の連続性について説明する。

第13回：『神道集』「伊香保大明神事」⑵　物語の前半部に着目して、縁起の悲劇性と人が神になることについて、その特徴と思想的背景を説明する。

第14回：『神道集』「伊香保大明神事」⑶　物語の後半部に着目して、在地縁起との比較を通して、『神道集』の縁起の特徴について説明する。

第15回：レポート作成と総括　第2回から第14回で取り上げた事柄についてレポートを作成する。作成したレポートを発表し、意見交換を行いながら、『神道集』の理解を深める。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

近藤喜博編『神道集　東洋文庫本』（角川書店）、貴志正造訳『神道集』（東洋文庫）

学生に対する評価

（1）ミニッツペーパー10%、（2）中間レポート30%、（3）期末レポート60%

授業科目名： 日本中近世文学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 柏原康人 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

１．日本文学研究に必要な注釈作業について理解する。

２．中世の文学の背景にある歴史や思想について理解する。

授業の概要

中世は宗教文芸が隆盛した時代である。その中でも「中世神話」と呼ばれる一群は、中世に生み出された諸作品の中に多く見出すことができる。その読み解きには、日本文学のみならず、日本思想史、宗教史等の知見が必要となる。本演習では、「日本中近世文学特論」をうけて、「中世神話」のテキスト読解を行う。本演習では『神道集』を取り上げて、その注釈作業を通じて、中世の文学の背景にある歴史や思想について学ぶことを目的とする。

授業計画

第１回：『神道集』概説　『神道集』の梗概について概説し、発表の手順や様式などについて理解する。

第２回：「蟻通明神事」講読（1）　「蟻通明神事」の深沙大将説話に関する受講者の発表をもとに意見交換しながら講読する。

第３回：「蟻通明神事」講読（2）　「蟻通明神事」の難題説話に関する受講者の発表をもとに意見交換しながら講読する。

第４回：「蟻通明神事」講読（3）　「蟻通明神事」の在地縁起との比較に関する受講者の発表をもとに意見交換しながら講読する。

第５回：「児持山大明神事」講読（1）　「児持山大明神事」の前半部分の縁起に関する受講者の発表をもとに意見交換しながら講読する。

第６回：「児持山大明神事」講読（2）　「児持山大明神事」の中間部分の縁起に関する受講者の発表をもとに意見交換しながら講読する。

第７回：「児持山大明神事」講読（3）　「児持山大明神事」の後半部分の縁起に関する受講者の発表をもとに意見交換しながら講読する。

第８回：「児持山大明神事」講読（4）　「児持山大明神事」の在地縁起との比較に関する受講者の発表をもとに意見交換しながら講読する。

第９回：「橋姫明神事」講読（1）　「橋姫明神事」の橋姫説話に関する受講者の発表をもとに意見交換しながら講読する。

第10回：「橋姫明神事」講読（2）　「橋姫明神事」の古本系統と流布本系統の違いに関する受講者の発表をもとに意見交換しながら講読する。

第11回：「橋姫明神事」講読（3）　「橋姫明神事」の他の縁起・説話との比較に関する受講者の発表をもとに意見交換しながら講読する。

第12回：「富士浅間大菩薩事」講読（1）　「富士浅間大菩薩事」の縁起叙述に関する受講者の発表をもとに意見交換しながら講読する。

第13回：「富士浅間大菩薩事」講読（2）　「富士浅間大菩薩事」と中世の竹取伝承との比較に関する受講者の発表をもとに意見交換しながら講読する。

第14回：「富士浅間大菩薩事」講読（3）　「富士浅間大菩薩事」の最終部の和歌に関する受講者の発表をもとに意見交換しながら講読する。

第15回：レポート作成と総括　第2回から第14回で取り上げた事柄についてレポートを作成する。作成したレポートを発表し、意見交換を行いながら、『神道集』の理解を深める。

テキスト

近藤喜博編『神道集　東洋文庫本』（角川書店）

参考書・参考資料等

貴志正造訳『神道集』（東洋文庫）

学生に対する評価

（1）ミニッツペーパー10%、（2）レポート40%、（3）プレゼンテーション50%

授業科目名： 日本近代文学特論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 古浦修子 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

１．近代文学を分析的に読む方法を身に付ける。
２．夏目漱石文学における東洋と西洋に対する認識を理解する。
３．夏目漱石文学における〈知〉と〈信〉の問題を理解する。

授業の概要

夏目漱石は、英文学研究や英国留学体験を通じて東洋的感性と西洋的感性の狭間で葛藤し、作家となった後には日本と西洋の宗教的土壌の違いを踏まえ、絶対なるものへの鋭敏な感覚を持ちながら信の対象を所有しえず苦悩する人間像を繰り返し描いてきた。本講義では、夏目漱石『行人』『道草』を主に取り上げ、日常的な関係性の中に置かれた作中人物が「神」と呼びうるものを把捉しようとするありようを読み解き、漱石文学における近代的知性と宗教性の関係を理解する。また、毎回の授業ではテクストの構成や表現に注目し、文学研究において求められる分析的な読み方の基本を身に付ける。

授業計画

第１回：漱石文学の成立①　英国留学体験と作家としての出発について解説し、近代文学史における夏目漱石文学の位置づけを確認する。
第２回：漱石文学の成立②　前期三部作『三四郎』『それから』『門』について解説し、漱石文学の主題を理解する。
第３回：漱石文学の成立③　後期三部作『彼岸過迄』『行人』『こころ』について解説し、漱石文学の主題を理解する。
第４回：『行人』①　『行人』「友達」を分析的に読み、テクストにおける冒頭部分の役割と問題点について考える。
第５回：『行人』②　『行人』「兄」を分析的に読み、テクストと時代や社会との関係について考える。
第６回：『行人』③　『行人』「帰ってから」を分析的に読み、作中人物の対比から〈知〉と〈信〉の問題について考える。
第７回：『行人』④　『行人』「塵労」前半を分析的に読み、テクストにおける語りの位相について考える。
第８回：『行人』⑤　『行人』「塵労」後半を分析的に読み、テクストにおける「Ｈさんの手紙」の役割と主題について考える。
第９回：『道草』①　『道草』一～二十九を分析的に読み、テクストにおける冒頭部分の役割と問題点について考える。
第10回：『道草』②　『道草』三十～五十二を分析的に読み、テクストにおける〈過去〉の表現方法について考える。
第11回：『道草』③　『道草』五十三～七十一を分析的に読み、テクストにおける対自的な視点について考える。
第12回：『道草』④　『道草』七十二～八十四を分析的に読み、テクストにおける身体性について考える。
第13回：『道草』⑤　『道草』八十五～百二を分析的に読み、結末部分の解釈や主題について考える。
第14回：演習形式授業①　『行人』について、受講生による研究発表を行う。発表者以外の受講生も問題意識を持って臨み、積極的に意見交換する。
第15回：演習形式授業②　『道草』について、受講生による研究発表を行う。発表者以外の受講生も問題意識を持って臨み、積極的に意見交換する。

テキスト

夏目漱石『行人』『道草』（新潮文庫ほか）

参考書・参考資料等

浅田隆・戸田民子編『漱石作品論集成　第九巻　行人』（桜楓社）、小森陽一・芹澤光興編『漱石作品論集成　第十一巻　道草』（桜楓社）

学生に対する評価

（1）授業への参加度20%、（2）プレゼンテーション30%、（3）レポート50%

授業科目名： 日本近代文学特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 古浦修子 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項

授業のテーマ及び到達目標

１．近代文学を分析的に読む方法を身に付ける。

２．遠藤周作文学における〈同伴者イエス〉像を理解する。

３．遠藤周作文学における〈信じる〉ことの内実を理解する。

授業の概要

遠藤周作は、少年時代の受洗から出発し、日本人とキリスト教との関係や日本人の宗教性を生涯にわたって追究し続けた作家である。宗教そのものの根本的意義が問われる現代において、制度としての宗教ではなく信じるという営みの根源に迫ろうとした遠藤文学の示唆するところは大きい。本講義では、遠藤周作『沈黙』『侍』を主に取り上げ、遠藤が日本人のキリスト教受容の可能性として繰り返し描いた〈同伴者イエス〉のありようを明らかにする。また、毎回の授業ではテクストの構成や表現に注目し、文学研究において求められる分析的な読み方の基本を身に付ける。

授業計画

第１回：遠藤文学の成立①　フランス留学と作家としての出発について解説し、近代文学史における遠藤周作文学の位置づけを確認する。

第２回：遠藤文学の成立②　初期の作品『白い人』『黄色い人』『海と毒薬』などについて解説し、遠藤文学の主題を理解する。

第３回：遠藤文学の成立③　中期～後期の作品『沈黙』『侍』『深い河』などについて解説し、遠藤文学の主題を理解する。

第４回：『沈黙』①　『沈黙』Ⅰ～Ⅱを分析的に読み、テクストにおける冒頭部分の役割と問題点について考える。

第５回：『沈黙』②　『沈黙』Ⅲ～Ⅳを分析的に読み、書簡による語りの効果について考える。

第６回：『沈黙』③　『沈黙』Ⅴ～Ⅵを分析的に読み、第三者視点による語りの効果について考える。

第７回：『沈黙』④　『沈黙』Ⅶ～Ⅷを分析的に読み、テクストにおける基督の顔の変化について考える。

第８回：『沈黙』⑤　『沈黙』Ⅸを分析的に読み、テクストにおける「切支丹屋敷役人日記」の役割と主題について考える。

第９回：『侍』①　『侍』Ⅰ～Ⅱを分析的に読み、テクストにおける冒頭部分の役割と問題点について考える。

第10回：『侍』②　『侍』Ⅲ～Ⅳを分析的に読み、〈東〉と〈西〉の対比的な人物造型の効果について考える。

第11回：『侍』③　『侍』Ⅴ～Ⅵを分析的に読み、作中人物における〈個〉の意識の萌芽について考える。

第12回：『侍』④　『侍』Ⅶ～Ⅷを分析的に読み、語りの抑制や視点移動による効果について考える。

第13回：『侍』⑤　『侍』Ⅸ～Ⅹを分析的に読み、遠藤文学における〈同伴者イエス〉像について考える。

第14回：演習形式授業①　『沈黙』について、受講生による研究発表を行う。発表者以外の受講生も問題意識を持って臨み、積極的に意見交換する。

第15回：演習形式授業②　『侍』について、受講生による研究発表を行う。発表者以外の受講生も問題意識を持って臨み、積極的に意見交換する。

テキスト

遠藤周作『沈黙』『侍』（新潮文庫ほか）

参考書・参考資料等

遠藤周作学会編『遠藤周作事典』（鼎書房）、石内徹編『遠藤周作『沈黙』作品論集』（クレス出版）

学生に対する評価

（1）授業への参加度20%、（2）プレゼンテーション30%、（3）レポート50%

授業科目名： 日本近代文学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 大場健司 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標
１．日本近代文学研究における同時代言説の調査方法について理解する。
２．日本近代文学研究における批評理論を用いた学際的な研究方法について理解する。
３．安部公房の1960年代の小説やエッセイが有する同時代的な意義について理解する。

授業の概要
本演習では、戦後日本の近代文学を対象に、文学テクストを同時代言説のネットワークの内部に置いて読む試みを行う。具体的には、日本のアヴァンギャルド作家、安部公房（1924-1993年）の主に1960年代の小説やエッセイを、同時代の雑誌や新聞といった活字メディアのみならず、絵画や映画、サブカルチャーといった非活字メディア（視聴覚メディア）との相互交通的な関係性から読んでいく。例えば、安部公房は同時代の現代思想や海外文学、映画、音楽を受容して小説や戯曲、エッセイを書いているが、なぜそのような同時代言説を受容する必要があったのだろうか。この問いは、作家が同時代言説を摂取する際の「まなざし」を前景化することだと言ってもよい。以上のように、本演習では批評理論や比較文学・比較文化、文化研究などの脱領域的な知の在り方への接続を図る。そして、この方法論は多様なテクストを読む手がかりとなるだろう。

授業計画
第１回：オリエンテーション　日本近代文学の研究方法についての概説を行う（作家論、作品論、テクスト論、文化研究、ポストコロニアリズム、メディア研究、同時代言説）。更に、安部公房の文学史上の意義についてディスカッションを行う。
第２回：安部公房『砂の女』と同時代言説(1)　『砂の女』（新潮社、1962年6月）を、1950年代の「荒地」をめぐる同時代言説との関係で読む。特に、荒地派の詩やT・S・エリオット『荒地』（*The Waste Land*, 1922）の日本での受容についてディスカッションを行う。
第３回：安部公房『砂の女』と同時代言説(2)　『砂の女』を、「実存」をめぐる同時代言説の内部に位置づける。特に、J＝P・サルトル（Jean-Paul Sartre, 1905-1980）の実存主義の受容や、逆に『砂の女』が欧米文学に与えた影響についてディスカッションを行う。
第４回：安部公房「ミリタリィ・ルック」と同時代言説(1)　安部公房のエッセイ「ミリタリィ・ルック」（『中央公論』1968年8月号）を、「軍服」をめぐる同時代言説の内部に位置づける。特に、三島由紀夫（1925-1970）の「軍服」論との関係についてディスカッションを行う。
第５回：安部公房「ミリタリィ・ルック」と同時代言説(2)　エッセイ「ミリタリィ・ルック」を、1960年代の「ロック・ミュージック」をめぐる同時代言説の内部に位置づける。特に、1966年に来日したビートルズのファッションとパロディの関係についてディスカッションを行う。
第６回：安部公房「ミリタリィ・ルック」と同時代言説(3)　エッセイ「ミリタリィ・ルック」を、同時代の構造主義や記号論といった現代思想との関係から読む。特に、ロラン・バルト（Roland Barthes, 1915-1980）や山口昌男（1931-2013）の受容についてディスカッションを行う。
第７回：安部公房「異端のパスポート」と同時代言説(1)　安部公房のエッセイ「異端のパスポート」（『中央公論』1968年9月号）を「明治百年」をめぐる同時代言説の内部に位置づけて読む。特に、三島由紀夫や司馬遼太郎（1923-1996）の国家論との差異についてディスカッションを行う。
第８回：安部公房「異端のパスポート」と同時代言説(2)　エッセイ「異端のパスポート」を、「人類の起源」をめぐる同時代言説の内部に位置づける。特に、SF映画『2001年宇宙の旅』(1968)や雑誌『朝日ジャーナル』といったメディアとの関係についてディスカッションを行う。
第９回：安部公房「異端のパスポート」と同時代言説(3)　エッセイ「異端のパスポート」を、「正統」／「異端」をめぐる同時代言説の内部に位置づける。特に、同時代の「異端文学」ブームや花田清輝（1909-1974）らの「モラリスト論争」との関係についてディスカッションを行う。
第10回：安部公房「アメリカ発見」と同時代言説(1)　安部公房のエッセイ「アメリカ発見」（『中央公論』1957年11月号）を、「アメリカ」と「占領」をめぐる同時代言説との関係で読む。特に、大江健三郎（1935-）や竹内好（1910-1970）との差異についてディスカッションを行う。
第11回：安部公房「アメリカ発見」と同時代言説(2)　エッセイ「アメリカ発見」を、同時代の日本で翻訳された、「アメリカ」を主題とする海外文学のネットワークの内部に位置づける。特に、J＝P・サルトルのアメリカ論の受容についてディスカッションを行う。
第12回：安部公房「アメリカ発見」と同時代言説(3)　エッセイ「アメリカ発見」を、同時代の「思想の科学研究会」におけるアメリカ論との関係で読む。特に、鶴見俊輔（1922-2015）のアメリカ論やプラグマティズムとの同時代的類似性についてディスカッションを行う。
第13回：安部公房『燃えつきた地図』と同時代言説(1)　安部公房『燃えつきた地図』（新潮社、1967年9月）を、1960年代の「都市」や「失踪」をめぐる同時代言説の内部に位置づける。特に、「都市」での「失踪」を描いたアメリカ文学の受容についてディスカッションを行う。
第14回：安部公房『燃えつきた地図』と同時代言説(2)　『燃えつきた地図』が海外で翻訳されることで、安部公房という作家に関する同時代言説がどのように生成されたのかについて考察する。特に、アメリカにおける安部公房の小説の受容についてディスカッションを行う。
第15回：研究発表　これまでの授業で学んだ同時代言説の調査方法や批評理論を応用して、レポートを作成する。受講者はそのレポートに関するプレゼンテーションを行い、受講者全員で議論を行い、文学テクストの研究方法について理解を深める。

テキスト
安部公房『砂の女』（新潮文庫、2003年3月改版）、安部公房『燃えつきた地図』（新潮文庫、1980年1月改版）、及び授業中に配布するプリント

参考書・参考資料等
大場健司『失踪するアメリカ―安部公房とポール・オースターの比較文学的批評』（春風社、2022年12月）、『安部公房全集』全30巻（新潮社、1997年1月-2009年3月）

学生に対する評価
(1)ミニッツペーパー10%、(2)レポート40%、(3)グループワーク20%、(4)プレゼンテーション30%

授業科目名： 日本語学特論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 大倉浩 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

１．狂言という芸能の歴史を知る。
２．江戸時代の版本の読解に習熟する。
３．文献資料の扱いや言語学的な問題の捉え方を身につける。

授業の概要

日本の古典芸能の一つである狂言の詞章を通して、日本語の歴史的研究の方法や現在の到達点について学んでゆく。日本語の研究と文献資料の関係、狂言を中心とした芸能の歴史をたどった後、江戸初期刊行の版本狂言記を資料として、いくつかの狂言を講読する。その中で、他の狂言台本や現在の実演映像と詞章を比較する。狂言という喜劇的な内容の背景にある文化史の流れにも気づかせたい。

授業計画

第１回：日本語の研究と文献資料　母語を研究することの利点と問題点をあげ、歴史的な研究のためのデータについて考える。音声資料を聞かせたり、映像資料を見せたり、文献資料に触れたりすることでそれぞれの特徴を実感する。
第２回：能と狂言　映像やホームページを参照しながら、現在演じられている能と狂言を比較し、それぞれの特徴を解説する。
第３回：狂言の歴史１　小山弘志の先行研究をもとに狂言の歴史を区分し、前史としての散楽・猿楽の流れを映像や画像とともに確認する。
第４回：狂言の歴史２　観阿弥・世阿弥による能の大成、江戸幕府による式楽化、明治以降の古典芸能の伝承、など現在までの変遷を映像資料などをもとにたどる。
第５回：版本狂言記について　原本コピーをもとに、版本狂言記の種類と出版状況について解説する。挿し絵も重要な資料であることに注意する。
第６回：「末広がり」を読む１　狂言記原本コピーで「末広がり」前半を読み、テキストや舞台映像をもとに読解する。変体仮名の読み方に慣れる。
第７回：「末広がり」を読む２　狂言記原本コピー「末広がり」後半をテキストや舞台映像をもとに読解する。和解の結末に注意する。
第８回：「釣り女」を読む１　狂言記原本コピーで「釣り女」前半を舞台映像「釣針」と比較しながら読む。
第９回：「釣り女」を読む２　狂言記原本コピーで「釣り女」後半を舞台映像「釣針」と比較しながら読む。「下剋上」という見方を学ぶ。
第10回：「柿山伏」を読む　狂言記原本コピーで「柿山伏」を舞台映像（大蔵流）と比較しながら読む。オノマトペの使用について考える。
第11回：「すはじかみ」を読む１　狂言記原本コピーで「すはじかみ」前半を舞台映像（大蔵流）と比較しながら読む。味覚の言葉に注目する。
第12回：「すはじかみ」を読む２　狂言記原本コピーで「すはじかみ」後半を舞台映像（大蔵流）と比較しながら読む。狂言記の挿し絵に注目する。
第13回：「どぶかっちり」を読む１　狂言記原本コピーで「どぶかっちり」前半を役柄に分けて読む（ロールプレイング）。言葉の差別について考える。
第14回：「どぶかっちり」を読む２　狂言記原本コピーで「どぶかっちり」後半を、『東海道中膝栗毛』と比較しながら読む。パロディについて考える。
第15回：芸能から見た日本語の歴史　江戸時代の芸能、歌舞伎や人形浄瑠璃、落語や講談などの映像を見ながら日本語の変遷を考える。

テキスト

北原保雄・大倉浩『狂言記新注』（武蔵野書院）

参考書・参考資料等

土井洋一・橋本朝生『狂言記』（岩波新古典大系）　山口仲美『日本語の歴史』（岩波新書）

学生に対する評価

小テスト・レポート４０％、プレゼンテーション２０％、ロールプレイング２０％、グループワーク２０％

授業科目名： 日本語学特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 大倉浩 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

１．狂言台本の変遷と系統を知る。
２．口頭の伝承と台本整理の跡付けが出来る。
３．言語学的な問題の捉え方、言語の歴史的な研究法を身につける。

授業の概要

日本の古典芸能の一つである狂言の詞章を通して、日本語の歴史的研究の方法や現在の到達点について学んでゆく。狂言の歴史をたどった後、前期に学んだ江戸初期刊行の版本狂言記と、各流派が伝承する台本の系統を整理し、同じ演目が時代や流派によってどれほどの変化を示すのか、またそこに現れる言語の特徴や差異を考える。その中で、現在の実演映像も比較する。改めて口承資料と文献資料のそれぞれの特性を確認し、受講生たちの研究の深化に役立てたい。

授業計画

第１回：狂言の変遷　前期「日本語学特論Ⅰ」を踏まえて、室町時代以後の狂言という芸能の変遷を、残された台本を紹介しつつ解説する。
第２回：台本について　能の流派と関連させながら、狂言の流派の歴史と代表的な狂言師の名前を整理し、残された狂言台本を紹介する。
第３回：「三本の柱」その１　狂言という演劇の特徴を踏まえて、続狂言記・大蔵流台本・和泉流台本で「三本の柱」を読み比べてみる。また、現在の舞台映像で流派の違いを確認する。
第４回：「三本の柱」その２　伝承の中での詞章整理と、流派意識という観点で狂言台本間の詞章や筋書きの相違を考える。実演映像によってその相違を実感する。
第５回：「相合袴」その１　狂言記原本コピーで「相合袴」を読み、舞台映像「二人袴」（和泉流・大蔵流）と比較する。聟入りという中世の儀式について考える。
第６回：「相合袴」その２　結末の違いから、『天正狂言本』「袴裂き」の推定など、狂言の作者や素材の研究について考える。
第７回：「武悪」その１　狂言記原本コピーで「武悪」前半を読み、大蔵流の映像と比較する。大蔵虎明本の「しがい（新開）」という語に注目する。
第８回：「武悪」その２　狂言記原本コピーで「武悪」後半を読み、大蔵流・和泉流の映像と比較する。結末の違いと狂言記の「しぎ（仕儀）」という後に注目する。
第９回：「萩大名」その１　狂言記原本コピーで「萩大名」前半を読み、大蔵流・和泉流の映像と比較する。助数詞の変遷に注意する。
第10回：「萩大名」その２　狂言記原本コピーで「萩大名」後半を読み、大蔵流・和泉流の映像と比較する。和歌の働きについて考える。
第11回：節分　狂言記原本コピーで「節分」を読み、大蔵流・和泉流の映像と比較する。日本人と鬼の関係を考える。
第12回：うつぼざる　狂言記原本コピーで「うつぼざる」を読み、野村萬斎たちの舞台映像と比較する。口承の実際と難しさを知る。
第13回：那須与一　狂言記原本コピーで「那須与一」を読み、語り物の特徴を整理する。登場人物による語り分けに注意する。
第14回：狂言の現在　新作の狂言や、上演の工夫などを紹介し、他の古典芸能の状況とも関連してこれからの狂言について考える。
第15回：芸能から見た日本語の歴史　江戸時代の芸能である歌舞伎や文楽への狂言の影響について、言葉の面から考える。

テキスト

北原保雄・大倉浩『狂言記新注』（武蔵野書院）

参考書・参考資料等

土井洋一・橋本朝生『狂言記』（岩波新古典大系）　小林賢次『狂言台本とその言語事象の研究』（ひつじ書房）

学生に対する評価

小テスト・レポート４０％、プレゼンテーション２０％、ロールプレイング２０％、グループワーク２０％

授業科目名： 日本語学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 平沢真由美 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

１．『万葉用字格』の編纂方針および研究史上の意義について理解できる。

２．古代の文字・表記について調査する方法を身につける。

授業の概要

春登『万葉用字格』（1818刊）は『萬葉集』における漢字の用法を分類し、50音順に配列したものである。この分類の際に使用された「借訓」などの用語および概念は現代の文字・表記研究でも使用されることがある。本講義では、まず受講生全員で『万葉用字格』の例言を読解し、そのうえで実際の『萬葉集』のテキスト、古辞書、コーパスなどを活用して、同書の「阿部」に掲載されている用例の確認・調査を行う。ここで修得した調査方法を活用して、各受講生が『万葉用字格』のなかから任意の部立、漢字、単語などを選択して調査し、発表する。その発表について受講生全員で討議する。

授業計画

第１回：漢字の用法についての概説　上代における漢字の用法にはどのようなものがあるか、具体例を挙げつつ解説する。また、受講生は『萬葉集』の本文から各用法に該当する用例を見つける。

第２回：『万葉用字格』例言の読解（1）　予習で課した翻刻をもとに、例言の前半に書かれていることを読み解き、その内容について議論する。また、例言の記述が後世にどのような影響を与えたか解説する。

第３回：『万葉用字格』例言の読解（2）　予習で課した翻刻をもとに、例言の後半に書かれていることを読み解き、その内容について議論する。また、例言の記述が後世にどのような影響を与えたか解説する。

第４回：『万葉用字格』「阿部」の調査（1）　例言で書かれている用字分類の規則が同書のなかでどのように実践されているかについて、「阿部」を例に『萬葉集』の本文や古辞書などを活用しながら、受講生全員で調査する。

第５回：『万葉用字格』「阿部」の調査（2）　「阿部」に掲載される実例について、実際の『萬葉集』での所在や合計用例数をデータベースやコーパスなどを活用しながら、受講生全員で調査する。

第６回：発表の相談と準備　個人発表に向けてテーマの相談や調査方法の確認などを行う。

第７回：発表（1）　用字分類の方針について、受講生による発表と討議を行う。

第８回：発表（2）　用字分類の実践状況ついて、受講生による発表と討議を行う。

第９回：発表（3）　用例の典拠について、受講生による発表と討議を行う。

第10回：発表（4）　「加部」から「素部」について、受講生による発表と討議を行う。

第11回：発表（5）　「多部」から「能部」について、受講生による発表と討議を行う。

第12回：発表（6）　「波部」から「母部」について、受講生による発表と討議を行う。

第13回：発表（7）　「也部」から「和部」について、受講生による発表と討議を行う。

第14回：発表（8）　万葉仮名の使用実態全般について、受講生による発表と討議を行う。

第15回：総括　第1回から第14回までの授業を振り返り、印象に残った調査や発表について受講生間で意見交換する。また、今度どのような発展的な課題に取り組めるか議論する。

テキスト

鈴木浩一解説『万葉用字格』（和泉書院）

参考書・参考資料等

坂本信幸・毛利正守編『万葉事始』、井手至・毛利正守『新校注 萬葉集』、笠間書院影印刊行会編『字典かな 出典明記』改訂版

学生に対する評価

（1）事前課題への取り組み20%、（2）グループワーク10%、（3）ディベート（授業内での意見交換）30%、（4）期末レポート40%

授業科目名： 漢文学特論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 黄冬柏 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

１．漢文学に関する基礎的な知識を身につけ、主な名作の概要を説明することができる。
２．『西廂記』文学の変遷と漢文学史に与えた影響について理解する。
３．漢文学の楽しさと西廂物語の面白さを理解する。

授業の概要

本講義では、漢文学の歴史と名作を概観したうえ、西廂物語を題材とする作品を取り上げ、それらの作品の内容と文学史に与えた影響などについて解説する。崔鶯鶯と張生の恋愛を題材とする西廂物語は、唐代小説『鶯鶯伝』から宋代趙令畤『元微之崔鶯鶯商調蝶恋花鼓子詞』・金代董解元『西廂記諸宮調』、そして中国古典戯曲の傑作である元代雑劇『西廂記』、明代伝奇『南西廂記』・清代雑劇『第六才子書西廂記』に至るまで、時代の推移に伴って色々な作品に作り上げられてきた。講義では、それらの作品の読解を通じて漢文学の歴史的な変遷を学習していく。各講義の終了時には、テーマごとにディスカッションを行い、ミニッツペーパーに質問や感想などを書いて提出することが求められる。

授業計画

第１回：オリエンテーション：漢文学を学ぶことは日本語学・日本文学を学ぶことにつながる　授業の内容や進め方および成績評価などについて説明する。また、漢文学史における主なジャンルとその代表作品を紹介したうえ、現在において漢文学を学ぶ意義について説明する。
第２回：『西廂記』文学の世界へ　唐の小説『鶯鶯伝』から清の雑劇『第六才子書西廂記』に至るまで、様々な作品に作り上げられた西廂物語は、人々に感動を与えつづけてきた。これらの作品の概要と文学史に与えた影響について解説する。
第３回：西廂物語の成立と小説『鶯鶯伝』（１）　『鶯鶯伝』作者である元稹とその詩文作品を紹介し、また白居易との交友関係を踏まえながら、『長恨歌』は『源氏物語』をはじめ平安時代の日本文学に与えた影響について言及する。
第４回：西廂物語の成立と小説『鶯鶯伝』（２）　作者自身の恋愛体験と言われる小説『鶯鶯伝』の内容とその特徴および文学史に与えた影響について具体的に説明する。
第５回：西廂物語の成立と小説『鶯鶯伝』（３）　『鶯鶯伝』は漢文学史に多大な影響を及ぼした。その理由は何といっても千古の名劇『西廂記』の源になったからである。本授業では、『鶯鶯伝』と『西廂記』の伝承関係について説明する。
第６回：西廂物語の流伝と『元微之崔鶯鶯商調蝶恋花鼓子詞』（１）　作者趙令畤の伝記と作品成立の背景を紹介し、また宋代文豪蘇軾との交友関係を踏まえながら、西廂物語は文人士大夫のサロンから庶民娯楽の場所での上演にまで進出することについて解説する。
第７回：西廂物語の流伝と『元微之崔鶯鶯商調蝶恋花鼓子詞』（２）　『元微之崔鶯鶯商調蝶恋花鼓子詞』の形式と内容の特徴を詳細に説明する。
第８回：西廂物語の流伝と『元微之崔鶯鶯商調蝶恋花鼓子詞』（３）　『元微之崔鶯鶯商調蝶恋花鼓子詞』は、当時行われていた西廂物語に初めて楽曲を添えたものであり、その形式と内容の特徴および成功度から見れば、『西廂記』文学の変遷史において重要な役割を果たしたことについて説明する。
第９回：西廂物語の戯曲化と『西廂記諸宮調』（１）　宋・金の間に流行した「諸宮調」というジャンルと『西廂記諸宮調』の作者董解元について詳しく説明する。
第10回：西廂物語の戯曲化と『西廂記諸宮調』（２）　『西廂記諸宮調』の形式と内容の特徴を具体的に説明する。
第11回：西廂物語の戯曲化と『西廂記諸宮調』（３）　『元微之崔鶯鶯商調蝶恋花鼓子詞』から『西廂記』雑劇へという西廂物語戯曲化の流れの中で、『西廂記諸宮調』は『西廂記』雑劇へ直接影響を及ぼしたことについて説明する。
第12回：古典戯曲の最高峰――元雑劇『西廂記』（１）　元の雑劇とその主な作品、そして『西廂記』は漢文学史における位置づけなどについて説明する。
第13回：古典戯曲の最高峰――元雑劇『西廂記』（２）　中国古典戯曲の最高水準を示す代表的傑作である『西廂記』の形式と内容の特徴を詳しく説明する。
第14回：古典戯曲の最高峰――元雑劇『西廂記』（３）　元雑劇『西廂記』は漢文学史に多大な影響を与え、その影響を受けて作られたな作品を取り上げて具体的に説明する。
第15回：まとめ　講義全体の振り返りと質疑応答を行った後、受講者が作成したレポートをプレゼンテーションしてもらう。ディスカッションを通して漢文学への理解を深める。

テキスト

黄冬柏『「西廂記」変遷史の研究』（白帝社、2010年）

参考書・参考資料等

前野直彬『漢文入門』（筑摩書房、2015年）・九州大学中国文学会編『中国文学講義』（中国書店、2002年）

学生に対する評価

(1) ミニッツペーパー30%、 (2) レポート40%、 (3) プレゼンテーション30%

授業科目名： 漢文学特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 黄冬柏 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

１．元雑劇『西廂記』の影響を受けた作品の概要を説明することができる。
２．日本における『西廂記』文学の受容について理解する。
３．『西廂記』文学の歴史を様々な角度から多面的に考察について理解する。

授業の概要

崔鶯鶯と張生の恋愛を題材とする西廂物語は、唐代小説『鶯鶯伝』から宋代趙令畤『元微之崔鶯鶯商調蝶恋花鼓子詞』・金代董解元『西廂記諸宮調』、そして中国古典戯曲の傑作である元代雑劇『西廂記』、明代伝奇『南西廂記』・清代雑劇『第六才子書西廂記』に至るまで、時代の推移に伴って色々な作品に作り上げられてきた。本講義では、「漢文学特論Ⅰ」に続き、元雑劇『西廂記』が誕生した後の作品を読解することによって漢文学の歴史的な変遷を学習していく。併せて、日本における中国古典の受容という視角から、日本の『西廂記』研究および日本に所蔵されている『西廂記』刊本について具体的な解説を加える。各講義の終了時には、テーマごとにディスカッションを行い、ミニッツペーパーに質問や感想などを書いて提出することが求められる。

授業計画

第１回：オリエンテーション　授業の内容や進め方および成績評価などについて説明する。また、元雑劇『西廂記』は漢文学史に与えた影響について説明する。
第２回：明清時代における『西廂記』の流伝　明清時代には『西廂記』の影響を受け、文人の演劇から民間の俗曲まで色々な作品に作り上げられてきた。講義では文人の曲から民間の歌へどのように変遷していったのかについて説明する。
第３回：明代伝奇『南西廂記』（1）　明代伝奇というジャンルの特徴、主な作品の内容、そして『南西廂記』の作者である崔時佩・李日華について詳しく説明する。
第４回：明代伝奇『南西廂記』（2）　明代伝奇の代表作である『南西廂記』の内容とその特徴について具体的に説明する。
第５回：明代伝奇『南西廂記』（3）　『南西廂記』は形式と内容において元雑劇『西廂記』との異同、そして両者の伝承関係について詳しく説明する。
第６回：清・金聖嘆『第六才子書西廂記』（1）　清の著名な文芸批評家である金聖嘆とその小説戯曲の批評を紹介し、『第六才子書西廂記』は西廂物語の流伝と戯曲理論の発展における位置づけについて解説する。
第７回：清・金聖嘆『第六才子書西廂記』（2）　金聖嘆が元雑劇『西廂記』を批評しながら改訂を加えた『第六才子書西廂記』は、原作の面目を一新する作品となった。その形式と内容の特徴を詳細に説明する。
第８回：清・金聖嘆『第六才子書西廂記』（3）　『第六才子書西廂記』は、『西廂記』文学の広範な流行において重要な役割を果たしたばかりではなく、中国古典戯曲理論の発展においても深遠な影響を及ぼした。講義では、この作品の影響について詳しく説明する。
第９回：日本における『西廂記』の受容　西廂物語を題材する作品の翻訳から、作者や刊本および形式と内容の考察など多岐にわたって研究されてきた。講義では主な翻訳作品と重要な研究論著を紹介し、日本における『西廂記』の受容状況について説明する。
第10回：日本に所蔵されている『西廂記』刊本　日本へ伝来した漢籍の中に中国本土では既に伝存しないものがある。『西廂記』の版本に限って言えば、国立公文書館内閣文庫などに十種余りの孤本が確認されている。講義ではこういった状況を具体的に説明する。
第11回：内閣文庫所蔵の『西廂記』孤本　国立公文書館内閣文庫に所蔵されている『重刻元本題評音釋西廂記』と『重校北西廂記』の形式と内容を紹介し、これらの版本の旧蔵者である林羅山の漢籍収集について具体的に説明する。
第12回：成簣堂文庫所蔵の『西廂記』孤本　石川武美記念図書館成簣堂文庫に所蔵されている『新刻考正古本大字出像釈義北西廂』の特徴を解説し、この版本の旧蔵者である徳富蘇峯の漢籍収集について具体的に説明する。
第13回：宮内庁書陵部所蔵の『西廂記』孤本　宮内庁書陵部に所蔵されている『李卓吾先生批評北西廂記』の形式と内容を紹介し、この版本の旧蔵者である徳山毛利家の漢籍収集について具体的に説明する。
第14回：天理図書館所蔵の『西廂記』孤本　天理図書館に所蔵されている『李卓吾先生批評西廂記』の特徴を明らかにし、これらの版本の旧蔵者である千葉鉱蔵・塩谷温の漢籍収集について具体的に説明する。
第15回：まとめ　講義全体の振り返りと質疑応答を行った後、受講者が作成したレポートをプレゼンテーションしてもらう。ディスカッションを通して漢文学への理解を深める。

テキスト

黄冬柏『「西廂記」変遷史の研究』（白帝社、2010年）

参考書・参考資料等

前野直彬『漢文入門』（筑摩書房、2015年）・九州大学中国文学会編『中国文学講義』（中国書店、2002年）

学生に対する評価

（1）ミニッツペーパー30%、（2）レポート40%、（3）プレゼンテーション30%

授業科目名： 漢文学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 黄冬柏 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項

授業のテーマ及び到達目標
１．小説『三国志演義』の名場面は原文から書き下し文と和訳を作成することができる。
２．日本における『三国志演義』受容の実態について理解する。
３．漢文学の楽しさと『三国志演義』の面白さを理解する。

授業の概要
日本においても馴染みの深い「三国志」と呼ばれるものには、史書『三国志』と小説『三国志演義』がある。中国の近世に成立した長編歴史小説『三国志演義』は日本に大きな影響を与えた。本授業では、小説『三国志演義』の名場面を取り上げて原文および漢文書き下し文と和訳により学習していく。具体的に、「桃園の誓い」「三顧の礼」「赤壁の戦い」「秋風五丈原」などの名場面を中心に原文から漢文書き下し文と和訳に作成して発表する。授業では、それらの名場面の読解を通じて小説『三国志演義』における虚実の組み合わせや英雄豪傑の人物像を考察しながら、中国の近世における人々の考え方や漢文学における表現の特徴などについても考えていく。

授業計画
第１回：オリエンテーション　授業の内容や進め方および成績評価などについて説明する。また、漢文学史における『三国志演義』の位置付けや日本において『三国志演義』を学ぶ意義について説明する。
第２回：「桃園の誓い」 (1)　『三国演義』第一回「宴桃園豪傑三結義、斬黄巾英雄首立功」（1～4ページ）を用いて、書き下し文と和文を作成して発表する。「黄巾の蜂起」など当時の出来事にかかわる諸問題について登場人物を中心に理解する。
第３回：「桃園の誓い」 (2)　『三国演義』第一回「宴桃園豪傑三結義、斬黄巾英雄首立功」（5～7ページ）を用いて、書き下し文と和文を作成して発表する。劉備・関羽・張飛三人の異なる経歴と性格について作者の描写意図を中心に理解する。
第４回：「桃園の誓い」 (3)　『三国演義』第一回「宴桃園豪傑三結義、斬黄巾英雄首立功」（8～10ページ）を用いて、書き下し文と和文を作成して発表する。原文に含まれる字音・語義・句法および文末の韻文（対句）について理解する。
第５回：「三顧の礼」 (1)　『三国演義』第三十七回「司馬徽再薦名士、劉玄徳三顧草廬」（308～310ページ）を用いて、書き下し文と和文を作成して発表する。諸葛孔明を推薦した経緯について徐庶など登場人物を中心に理解する。
第６回：「三顧の礼」 (2)　『三国演義』第三十七回「司馬徽再薦名士、劉玄徳三顧草廬」（311～313ページ）を用いて、書き下し文と和文を作成して発表する。劉備は諸葛孔明を迎え入れる当時の状況について諸葛孔明の役割を中心に理解する。
第７回：「三顧の礼」 (3)　『三国演義』第三十七回「司馬徽再薦名士、劉玄徳三顧草廬」（314～316ページ）を用いて、書き下し文と和文を作成して発表する。原文に含まれる字音・語義・句法およびよび文末の韻文（対句）について理解する。
第８回：「赤壁の戦い」 (1)　『三国演義』第四十八回「宴長江曹操賦詩、鎖戦船北軍用武」（395～400ページ）を用いて、書き下し文と和文を作成して発表する。曹操の文才と野望について詩文作品と計画戦略を中心に理解する。
第９回：「赤壁の戦い」 (2)　『三国演義』第四十九回「七星壇諸葛祭風、三江口周瑜縱火」（401～409ページ）を用いて、書き下し文と和文を作成して発表する。「東南の風を吹く」の信憑性と諸葛孔明の知恵について原文を読み取って理解する。
第10回：「赤壁の戦い」 (3)　『三国演義』第五十回「諸葛亮智算華容、関雲長義釈曹操」（410～416ページ）を用いて、書き下し文と和文を作成して発表する。原文に含まれる字音・語義・句法および文末の韻文（対句）について理解する。
第11回：「秋風五丈原」 (1)　『三国演義』第一百四回「隕大星漢丞相帰天、見木像魏都督喪膽」（863～865ページ）を用いて、書き下し文と和文を作成して発表する。諸葛孔明の死因および蜀に置かれる状況について三国の勢力を中心に理解する。
第12回：「秋風五丈原」 (2)　『三国演義』第一百四回「隕大星漢丞相帰天、見木像魏都督喪膽」（866～867ページ）を用いて、書き下し文と和文を作成して発表する。司馬懿の知恵と魏の戦略についてリーダーの役割を中心に理解する。
第13回：「秋風五丈原」 (3)　『三国演義』第一百四回「隕大星漢丞相帰天、見木像魏都督喪膽」（868～869ページ）を用いて、書き下し文と和文を作成して発表する。原文に含まれる字音・語義・句法および文末の韻文（対句）について理解する。
第14回：日本における『三国志演義』の受容と流行　湖南文山の邦訳『通俗三国志』が初めて刊行され、吉川英治の小説『三国志』が戦後の三国志ブームの礎となり、またゲームやアニメにおいても爆発的なブームが起きたことについて考察する。
第15回：まとめ　授業全体の振り返りと質疑応答を行った後、テーマごとにディスカッションを行い、小説『三国志演義』への理解を深める。

テキスト
羅貫中『三国演義』（人民文学出版社、1957年）

参考書・参考資料等
羅貫中著・井波律子訳『三国志演義』（筑摩書房、2002年）・金文京『三国志演義の世界』（東方書店、2010年）

学生に対する評価
（1）レポート40%、（2）プレゼンテーション60%

授業科目名： 中国書道史特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 古木誠彦 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項

授業のテーマ及び到達目標

１．中国書道史を通観し、中国の書体史・書法史に関する知識向上と、書美に関する理解の深化を目標とする。

２．各書体や書風の変遷・特徴とその書美について、中国社会状況に因る時代性と併せて理解できることを目標とする。

３．漢字の字形・字義について、中国の社会・文化等と併せてより深く理解できることを目標とする。

授業の概要

本講義は、東アジア史の中でも中国の歴史を中心に「中国における書体・書風の変遷」に沿って、各時代の書美に関連する表現技術（技法）や観念を明確に捉えながら、文化文芸について考察する内容である。そのために、書の歴史と書論を併用して講義し、書に関連することを多分野より立体的に究明できる力と各時代区分における書美の根源を言語化できる力を養成する。併せて、書美の根本である「漢字」についても、その字形・字義における成り立ちや変遷についても講義を行う。

また博物館・美術館等で、書関係資料（史料）の展覧会があれば（もしくは展覧可能なものがあれば）、必要に応じて学外での講義も実施する予定である。

授業計画

第１回：① 中国書道史について　書体の変遷に特化し概略を講義する。（殷時代から唐時代までの概略）

第２回：② 中国書道史について　書風の変遷・変化に特化し概略を講義する。（五代十国から清時代までの概略）

第３回：Ⅰ 甲骨文字の研究　甲骨文字の特性と字形について講義する。また甲骨文の読解・解説を行う。

第４回：Ⅱ 金文形の研究　西周時代前期・中期・後期の字形について講義する。各期の代表的な銘文の読解・解説を行う。

第５回：Ⅲ 金文形の研究　春秋・戦国時代の字形について講義する。本時代の秦国に関する銘文を中心に読解・解説を行う。

第６回：Ⅳ 隷書体の研究　前漢時代の字形・書風について講義する。本時代の石碑・木簡類を数種取り上げ、その内容の読解・解説を行う。

第７回：Ⅴ 隷書体の研究　後漢時代の字形・書風について講義する。本時代の石碑・木簡類を数種取り上げ、その内容の読解・解説を行う。

第８回：Ⅵ 行書・章草の研究　後漢時代の行書・章草の字形・書風について講義する。本時代の行書・章草を数種取り上げ、その内容の読解・解説を行う。

第９回：Ⅶ 楷書・行書・草書の研究　三国・西晋・東晋（五胡十六国）時代の字形・書風について講義する。本時代の楷書・行書・草書を数種取り上げ、その内容の読解・解説を行う。

第10回：Ⅷ 楷書の研究　南北朝時代の北朝の字形・書風について講義する。本時代の楷書を数種取り上げ、その内容の読解・解説を行う。

第11回：Ⅸ 隋・唐・五代の書の研究　隋・唐・五代十国の時代の書風について概略を講義する。本時代の書を数種取り上げ、その内容の読解・解説を行う。

第12回：Ⅹ 宋・金・元の書の研究　宋・金・元の時代の書風について概略を講義する。本時代の書を数種取り上げ、その内容の読解・解説を行う。

第13回：Ⅺ 明時代の書の研究　明時代の書風について概略を講義する。本時代の書を数種取り上げ、その内容の読解・解説を行う。

第14回：Ⅻ 清時代の書の研究　清時代の書風について概略を講義する。本時代の書を数種取り上げ、その内容の読解・解説を行う。

第15回：レポート作成と総括　第2回～第14回の授業で取り上げた書の中からひとつを選び、レポートを作成する。そのレポートを受講者が発表し、意見交換をしながら、書美に対する理解を深める。

テキスト

『中国書道史』（角井博監修・芸術新聞社）

参考書・参考資料等

『西川寧著作集１～10』『青山杉雨文集1～5』『白川静著作集別館 1～8 説文新義』

学生に対する評価

プレゼンテーション50%、小テスト・レポート20%、グループワーク10%、ミニッツペーパー20%